

貝から探る日本の原風景

-貝類学者の視点から-



日時：2019年7月27日（土）13:00~15:00

場所：愛媛大学 法文学部本館8階 大会議室

講師：黒住耐二（千葉県立中央博物館）

黒住耐二氏は貝類学者として、考古遺跡の発掘調査に携わりながら、日本や世界の遺跡から出土した貝と長年向き合ってきました。貝類学者が、なぜ遺跡に立ち、遺跡に遺る貝を探し求めているのでしょうか。それは、貝が失われた自然や、過去の人々の暮らしを語ってくれるからです。黒住氏は、世界最古の貝製釣針や旧石器時代の貝製品、“縄文人の海洋適応”、藻塩焼き、弥生時代の貝製腕輪、沖縄の古代農耕、江戸時代の“貝むき”、瀬戸内海の近代漁業など、多岐にわたって取り組んでこられました。それら復元されたひとつひとつの自然や生活の痕跡をつなぎながら、考古学的研究だけでは、これまでに知り得なかった日本の原風景をお話しいたします。

申込不要・入場無料



【黒住耐二氏プロフィール】

1982年、琉球大学理学研究科・修士課程修了。琉球大学技能補佐員・東京都小笠原支庁産業課／沖縄県農業試験場／沖縄県立八重山農林高校／沖縄県教育庁文化課等の非常勤職員等を経て、1989年、千葉県立中央博物館に赴任。2019年、同館資料管理研究科長にて定年退職。現在、同館上席研究員（再任用）。

愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター

〒790-8577 松山市文京町3番 HP: <http://www.ccr.ehime-u.ac.jp/aic/>

Tel/Fax: 089-927-8391 Email: kotetsuAIC@gmail.com